警備業（交通誘導）の本質に関する一考察

高知工科大学　経済・マネジメント学群
1220533　濱田　光
指導教員　渡邊　法美

【研究背景】

私たちの生命・財産を守り、生活の安全性・利便性を向上するために、建設工事は不可欠である。その工事現場付近を通行する歩行者・運転者、近隣住民、並びに現場作業員の安全性・快適性を確保する業務を担っている主体が、交通誘導員である。ただし、筆者が調べた範囲では、交通誘導員に関する調査研究は殆ど存在していない。

【研究目的】

本研究は、警備業（交通誘導）の本質を考察することを目的とする。具体的には、交通誘導員の業務の実態に関する聞き取り調査を行い、その結果に基づいて、交通誘導業の根源的特性である本質を考察することを試みる。

【調査・分析】

警備業務を行っている 2 社（A 社、B 社）を選び、2 人の交通誘導員と A 社社長 1 人の計 3 名から聞き取り調査を実施した。聞き取り調査では、予め業務中の安全性、リスク対策に関する質問項目を設定し、回答して頂く中で、調査者（筆者）が気になった部分を更に深堀していく形で調査を進めた。

【分析結果】

日本では、工事現場周辺でも他者による安全確保が要請されている。そこでは、運転者、歩行者、近隣住民、現場作業員等様々な主体の安全確保が求められる。その要請に応える主体が、警備員（交通誘導員）である。この業務には、多くのリスクが発生する。

【考察・結論】

警備業（交通誘導）の業務の本質は、以下のように整理される。

① 自身の安全確保が不十分な状況が起こり得る中で、複数他者の安全確保が要請される。

② ①であるからこそ、一つ一つの地道な積み重ねが必要となる奥の深い仕事である。

③ 法的権限が無いが故、住民・運転手・建設会社・社内（現場と事務所）との協力が必須である。

警備業（交通誘導員）に対する一般的認識は業界も含めて低い。その最大の理由は、上記本質の理解が不充分であるためと考えられる。